学校番号	1004

令和８年度　芸術科（音楽）

教科	音楽	科目	和楽器	単位数	２単位	年次	２，３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・社会人講師による専門的な指導を受け、和楽器独特の奏法を生かして、美しい音色や響きで演奏する知識や技能を身に付けましょう。
・和楽器独特の奏法の特徴やその音色や響きの豊かさを感じ取りましょう

2　学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成する。
【知識及び技能】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 知識 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 技能	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	和楽器に親しみ，演奏に挑戦しよう	【器楽】 三味線	a：【知】 曲想と和楽器の音色や奏法との関わり，及び和楽器を使った様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。 【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な，曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能を身に付け，器楽で表している。 b：音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 c：曲想と和楽器の音色や奏法との関わり， 及び和楽器を使った様々な表現に関心をもち，主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 演奏の聴取	ワークシート 観察	観察 演奏の聴取
2	和楽器に親しみ，表現を工夫して演奏しよう	【器楽】 篳篥・笙・篠笛	a：【知】曲想と和楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な，曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能を身に付け，器楽で表している。 b：音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。 c：曲想と和楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち，主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 演奏の聴取	ワークシート 観察	観察 演奏の聴取

	日本の古典音楽(雅楽)について知ろう	【鑑賞】 ・雅楽	a: 【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり，及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 b: 音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，音楽表現の共通性や固有性について考え，音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 雅楽の音楽の特徴と文化的・歴史的背景，他の芸術との関わりに関心をもち，主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワーク シート 観察	ワーク シート 観察	観察 レポート
3	表現を工夫して、和楽器合奏をしよう	【三味線】 【篳篥・笙・篠笛】	a: 【知】曲想と和楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。 【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な，曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能，及び他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け，器楽で表している。 b: 音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 c: 曲想と和楽器の音色や奏法との関わり，及び他者との調和や表現形態の特徴を生かして演奏することに関心をもち，主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	ワーク シート 発表	発表 グループ ワーク 振り返り レポート	観察 発表 ワーク シート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度